

# 桃太郎

語り手…細川 カツさん（東、明治 17 年生まれ）

とんとん昔があっただけな。

おじいさんとおばあさんと仲良く暮らしていたげな。おじいさんが、「今日は天気がよしいから山へ柴刈りに行きます」とおばあさんに言うたですに、「そんなら、わたしも今日はかわへ洗濯（しえんたく）に行きます」ちゅうことをおじいさんに伝えましたら、

「そんなら、わたしやもう山へ行きますから、おまえは洗濯しなさい」

で、おばあさんが洗濯に行きましたら、洗濯しておるところへ大きな川から桃が流れて来まして、その桃を喜んで持って帰って、

「これは、もう一人で食べられんから、おじいさんが帰ってから食べましょ」と言うておりましたら、おじいさんが間もなく帰って、

「ああ、これはおじいさん、今日はわたしは洗濯をしながらこういうものを拾いましたから、二人で分けて食べましょや」ちゅうて分けましたら、桃ではない、これは子供さんが生まれてきましたので、おばあさんが喜んで、

「こりゃもう自分で食べられんから、神さんにお供えしましょ」ちゅうので、神さんに供えておるとおろへ、大きな声をしてその子供さんが泣いて、おばあさん、大変喜んで、「これまあ、われわればかりでは…、名前もつけねばならぬ。出ておる子供を呼んで、子供と名前をつけましょ」ちゅうやなことで、

「名前をつけてください」と子供に言いましたら、その子供が、「これは名前は何だりいらぬ。桃から生まれたから桃太郎という名につけましょ」ちゅうやなことで、お名前をつけて楽しんでおったところが、だんだん大きくなって、「鬼ヶ島へ仇（かたき）を討ちに行きましょ」。

その子供さんが言うて、大変、おじいさんもおばあさんも喜んで、それなら、また他の人が、「わたしもお供します」ちゅうやなことで、一緒に行かれた話をわたしのおじいさんがしました。ま、長いことわたしも覚えましえんからね。そこらでおきましょ。

■収録／昭和 48 年 5 月 26 日／酒井董美（細川さん宅にて）

## 隠岐島前高校郷土部収録 海士町の民話から (30)

■再話・解説  
酒井董美（山陰民俗学会会長、元隠岐島前高校郷土部顧問）



イラスト／福本隆男（崎出身、三郷市在住）

【解説】おなじみの「桃太郎」の話である。細川さんの語りでは、きび団子は出て来ないし、鬼ヶ島に出かける途中、犬、猿、キジなどのお供も登場せず、他の人が供になって行く、という形で続いている。また、その結果がどうなったかまでは語られていない。ただ、細川さんのおかげで海士町でもこの話が残されていたことが分かるという点で貴重だといえる。この話を収録したのは筆者が海士中学校教諭時代であり、これは郷土部発行の『島前の伝承』第 3 号（昭和 51 年 7 月発行）に掲載している。

さて、郷土部ではこの「桃太郎」の話を別に 2 話うかがっている。菱浦の渡部松市さん（明治 28 年生）と山崎ツギさん（明治 32 年生）の話である。お二人の話にはきび団子があり、家来になる動物は山崎さんの話では犬、猿、キジ、渡部さんの話ではキジと犬が出ている。この話の方を本紙で紹介すればよいようだが、やや長すぎて 1 ページの紙面におさまりきれないので、今回は解説の中で紹介させていただくことにした。

隠岐島前高校郷土部が活動していた時代は、40 年前の昭和 50 年（1975）から数年間のことだったが、当時の生徒諸君のがんばりはすばらしかった。島前地区はもちろん島後地区もひとつおりは収録活動を展開した。おかげで隠岐全体の民話などの伝承実態がはじめて明らかになり、学会でも知られるようになった。そのような成果も知っていただきたいと、かつての顧問は願うのである。